

お客さま満足

消費者志向自主宣言

コカ・コーラ ボトラーズジャパンは「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造します」をミッションに掲げております。すべてのお客さまから選ばれるパートナーであり続けることを目指し、2022年4月に消費者庁が推進する“消費者志向経営”に賛同し消費者志向自主宣言を行いました。

5つのポリシーのもとに“消費者志向経営”を実施し、お客さまとともに歩んでまいります。

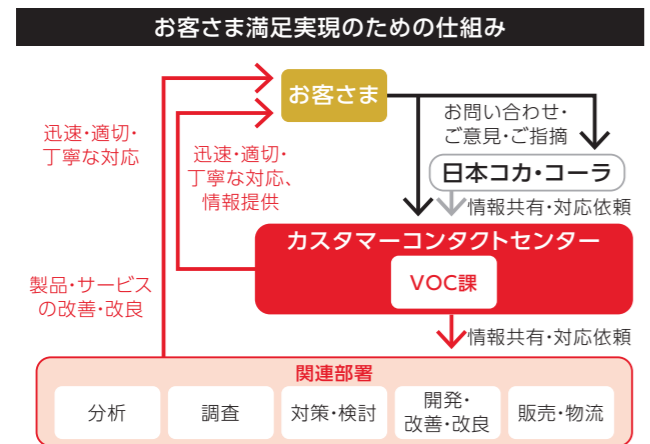
お客さまのために

私たちは、常に誠実で、誰にでもオープンでわかりやすいコミュニケーションを実現するためにVOC(Voice Of Customer=お客さまの声)課・カスタマーコンタクトセンターを中心にお客さまの期待に応えるための仕組みづくりを進めています。

お客さま満足実現に向けた体制

カスタマーコンタクトセンターはCCBJHグループすべてのお客さまの窓口です。カスタマーコンタクトセンター内にあるVOC課を軸に、寄せられたお問い合わせ・ご意見・ご指摘などの情報を社内へ共有し、より良い製品・サービスの改善に向けた取り組みを実施しています。

当社のお客さま対応プロセスおよびマネジメントシステムはご指摘対応の国際規格ISO10002(JISQ10002)*に適合しています。



*ISO10002(JISQ10002)とは、お客さま満足の向上のために、製品・サービス品質やご指摘(苦情)対応プロセスの継続的な改善を図ることを目的とした国際規格。ISO10002(JISQ10002)には、第三者機関が認証を行う審査登録制度がないため、企業はこの規格への適合を自ら確認し自己適合宣言を行うことができますが、コカ・コーラシステムでは第三者による適合性評価(第三者意見書)を受けた上で自己適合宣言を行っています。

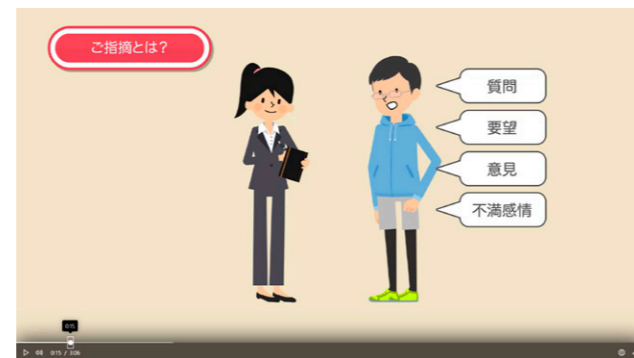
お客さま満足実現に向けた社内教育

【Hot Voice】

お客さまからのお問い合わせ・ご意見・ご指摘を全社に共有するため、お客さまの生の声をVOC課より“Hot Voice”として社内イントラネット、社内SNSを通じ配信しています。

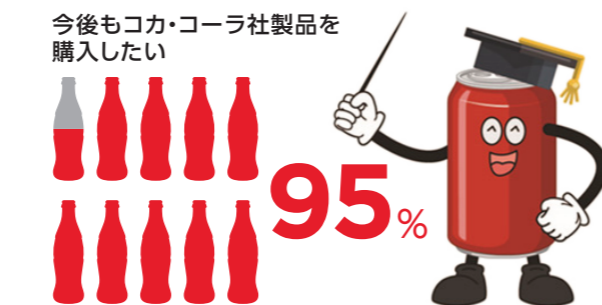
【お客さま対応ビデオ】

お客さまによりご満足いただくため、社員教育に力を入れています。VOC課より地域担当者へお客さま対応ビデオを配信し、地域担当者が対応前にビデオを確認することで、適切なお客さま対応ができるような教育の仕組みを導入しています。



更なる期待に応えるために

ご指摘を頂戴したお客さまにアンケートを実施し、お客さま対応の評価およびコカ・コーラ社製品の再購入意向調査を行っています。お客さまの期待に応える体制を構築するために、VOC課は、地域担当者の対応について、アンケートを実施しています。ご指摘を頂戴したお客さまから、これまで通りコカ・コーラ社製品を購入したいと回答いただけるよう、対応力向上に努めてまいります。



品質保証

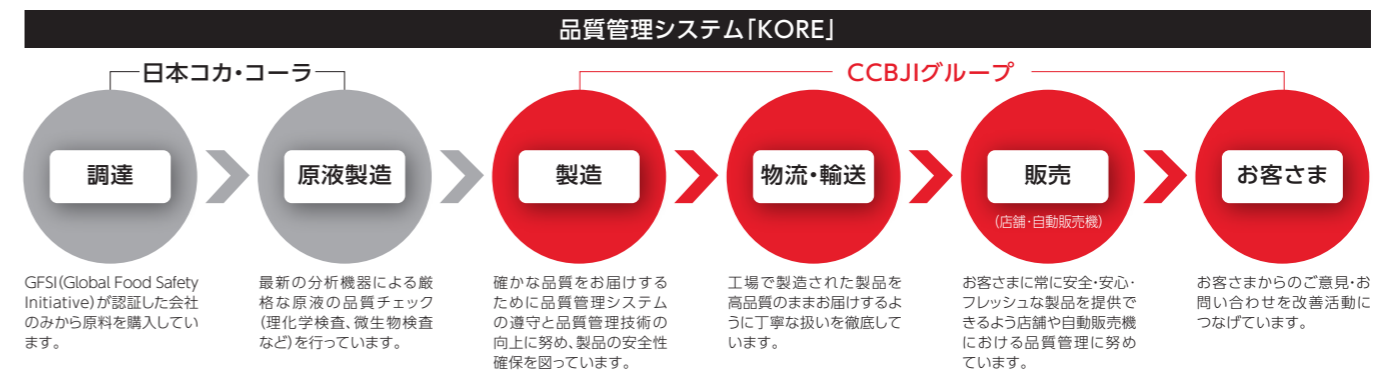
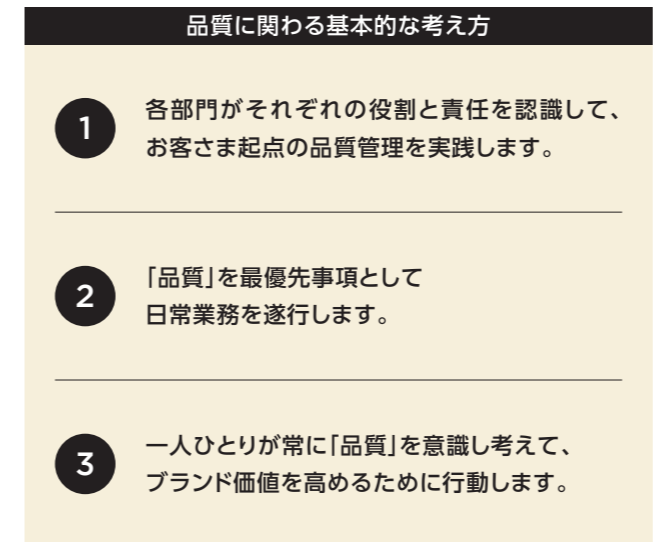
品質方針

私たちはお客さまに、安全・安心・フレッシュでさわやかな製品・サービスを提供するために品質を最優先事項として捉え、すべての業務プロセスで品質の確保および向上に取り組んでいます。

品質に関わる基本的な考え方のもと、国内の基準を遵守するとともに、コカ・コーラシステムは、世界共通の「KORE (Coca-Cola Operating Requirements)」と呼ばれる独自のマネジメントシステムによるオペレーション管理を行っています。

「KORE」は原材料の調達から製造、物流、販売を経てお客さまに製品が届くまでの各過程において「品質」「食品安全」「環境」「労働安全衛生」に関する基準を網羅したシステムで、国際規格であるISOをはじめ、各種法令の要求事項を満たしつつ、さらに厳しい基準を自らに課す内容となっています*。

*「品質」に関してはISO9001に、「食品安全」はFSSC22000に、「環境」はISO14001に、「労働安全衛生」はISO45001に準拠しており、すべての工場で認証を取得しています。また、ISO14001は、セールスセンター、オフィスなどでも認証を取得しています。



品質意識醸成のために

私たちはお客さまに、安全・安心な製品をお届けするために、社員の品質に対する意識の醸成を推進しています。

【CCBJI_QA Monthly Report】

部門長あてに毎月レポートを発信しています。部門長を通じて製品の品質に関して起きている事象や、どのような改善が進められているのかを周知しています。

【60秒の品質講座】

社員の品質マインドの向上を目指し、イントラネットを活用した製品の品質に関わる“ミニ講座”を定期的実施しています。

【品質サーベイ・品質インスペクション】

品質保証を統括する部門が、製造、物流、営業現場へ足を運んで品質管理状況を確認し、潜在するリスクの把握を行った上で、改善に向けたコミュニケーションを通じリスクの予防を推進しています。

【お客さま向け動画】

日本コカ・コーラと連携し、製品の安全・安心のために行っている取り組みや、製品についての素朴な疑問などを、製品をご愛飲いただいているお客さまへ、わかりやすくYouTube動画で提供しています。下記の二次元バーコードからご参照ください。



倫理・コンプライアンス

倫理・コンプライアンス方針

CCBJHグループでは、企業の社会的責任を果たし、社会とともに持続的に発展する企業であり続けるために、社員一人ひとりが正しい行動を行う上での指針となる「倫理・行動規範」を制定し、倫理・コンプライアンスを重視する社風の促進を図っています。また私たちは、バリューの一つである、Integrity：誠実と信頼に基づいた気高い志で行動することを重視しています。

「倫理・行動規範」は正しい行動、人権の尊重、ステークホルダーとの関係、利益相反の4つの柱で構成され、法令や規範に加えて社内の規則や職場の規律に従い、誠実さをもって正しく正直に行動すること、行動する前によく考えること、判断に迷ったり懸念があるときは指導を仰ぐことを社員に求めています。

コンプライアンス教育


社員の倫理観とコンプライアンス意識の一層の醸成、浸透を図るため、定期的に全社員に向けて「倫理・コンプライアンス通信」を発信しているほか、管理者や新入社員などを対象と

した階層別の研修や、全社員対象のeラーニングなど啓発・教育活動を継続的に実施しています。

倫理・コンプライアンス相談窓口

法令や倫理・行動規範などに抵触する、または抵触する懸念がある行為について、専用メールや電話などにより社員から直接相談を受け付ける「倫理・コンプライアンス相談窓口」を設置しています。相談は匿名でも行うことができ、相談窓口の連絡先は、倫理・コンプライアンス通信やイントラネットへの掲載、各拠点内でのポスター掲示など、さまざまな手段で周知し、相談しやすい環境づくりに取り組んでいます。受け付けた相談案件は、事実を確認し不適切な行為が確認された場合は、適正に対処するとともに是正措置を行います。また、相談案件の対処にあたっては、相談者の保護に努めており、相談したことを理由として相談者に不利益な取り扱いを行うことを禁止しています。

CCBJHグループの倫理・行動規範の資料
https://www.ccbji.co.jp/vision/pdf/ja/CCBJHgroup_Ethics_jp.pdf



人権尊重

人権尊重に関する取り組み

CCBJHグループでは、人権の尊重は地域社会の持続可能性を実現するための企業活動の基本であると考え、積極的に人権尊重に向けた取り組みを実施しています。

また、ザ コカ・コーラ カンパニーの定める人権および職場の責任プログラムを支える大きな柱となる「サプライヤー基本原則」をバリューチェーン全体への取り組みとして遵守しています。

人権ポリシー

国連の「世界人権宣言」、国際労働機関(ILO)の「労働における基本的原則および権利に関するILO宣言」を含め、人権を促進し保護することを目的とした国際的な人権原則を事業活動において遵守するべく、CCBJHグループでは「人権ポリシー」を策定しています。

定められた人権ポリシーに従い、グローバルおよび日本国内のさまざまな人権問題の解消と職場における人権尊重の確立に向け、徹底を図っていきます。

人権ポリシーで定める項目	
人権の尊重	強制労働の禁止
地域社会やステークホルダーとの関わり	児童労働の禁止
ダイバーシティ・アンド・インクルージョン(多様性の受容)	労働条件
結社の自由と団体交渉の権利	健康的な生活
職場のセキュリティ	社員向けのガイダンスと報告

社内への啓発活動

人権尊重への理解を深めるため、人権ポリシー・労働基準法の遵守の徹底や、有給休暇の取得促進などについて、階層別研

人権啓発推進プログラム
実施回数
2021年 **8**回



修やeラーニング、社内イントラネットへの情報発信による啓発活動を行っています。これらの活動を通じ、人権問題を自らの課題として受け止め、他人を思いやり、常に相手の立場に立った行動ができる社員育成および活力ある健全な職場環境づくりを目指しています。

サプライヤー基本原則

「サプライヤー基本原則」は、最高水準の品質、誠実さ、卓越性、法令遵守など私たちが重視する価値をサプライヤーに理解していただき、ともに推進していくための指針となっています。この指針に基づき、サプライヤーへ法令を遵守し倫理的に行動する業務プロセスの構築・導入を求めています。

また、人権デューデリジェンスの観点から児童労働や強制労働・労働者の虐待の禁止・差別の撤廃や労働時間と賃金、安全で健康な職場環境の提供について明示しています。

サプライヤー基本原則の資料
<https://www.coca-colacompany.com/content/dam/journey/us/en/policies/pdf/human-workplace-rights/supplier-guiding-principles/supplier-guiding-principles-brochure-japanese.pdf>



持続可能な農業の原則

サプライチェーンの調達においては、取引産地基準としてコカ・コーラシステムの独自規格「持続可能な農業の原則：PSA(Principles for Sustainability Agriculture)」を定め、持続可能な供給源から飲料の原料となる主要な農産物の100%調達を目指す取り組みを続けています。また、食品安全、環境保全、責任ある農業管理だけでなく、農業現場の人権や労働安全についても指針を設けています。



「綾鷹」はGAP(Good Agricultural Practice)認証を受けた農場の茶葉を使用しています。

倫理・行動規範を守りましょう

私たちCCBJHグループは、ミッション、ビジョン、バリューにおいて、**Integrity：誠実と信頼に基づいた気高い志で行動することに、価値を置いています。**

すべての社員に求められること

- ◆ 法令と倫理・行動規範、また、社内の規則や職場の規律を守りましょう。
- ◆ 良識を持って判断し、不正と思われるような行動は回避しましょう。
- ◆ 私生活でも会社の名誉や利益を損なうような行為は厳につつみましょう。

行動のセルフ チェック 迷ったら、行動する前に自分に問いかけてみましょう。

あなたがしようとしていることは・・・

法令に沿っていますか？

YES？

企業理念や倫理・行動規範に沿っていますか？

相手の立場に立った行動ですか？

お客さまや社会の人々から支持されますか？


本当に？

自分と会社の名に恥じない行為ですか？


ひとつでも「いいえ」の答えがある場合には、その行動をとらないでください。

倫理・コンプライアンスポスター

倫理・コンプライアンスへの取り組みの詳細
<https://www.ccbji.co.jp/csv/compliance/>



人権ポリシーの詳細
<https://www.ccbji.co.jp/csv/humanrights/>



働き方と健康経営

人事制度の整備

私たちは、「Paint it RED! 未来を塗りかえろ。」を総称とする企業理念のもと、グループのミッション・ビジョン・バリューに沿った戦略目標の達成に貢献した社員を正しく評価し、適切な報酬を支払います。当社が市場で選ばれ続けることを目指して、より優秀で多様な人財をひきつけ、個人の成長を促していきます。

そのほかにも、さまざまな社員が各自の生活やワーキングスタイルに応じた働き方を選択し、持てる力を十分に発揮して働けるような制度や仕組みを設けています。

こうした取り組みが評価され、2021年度「日経スマートワーク経営調査」において、前年度より0.5プラス評価の、「4.5星」に認定されました。

主な制度例

- 業績のみでなくバリュー(行動)も重視した評価と人財育成
- ハイフォーマーに報いる業績連動型賞与
- 役割・責任に応じた労働市場において競争力のある報酬水準
- 社員がやりがいを持って安心して働き続けるための福利厚生制度

働き方改革強化の取り組み

【業務プロセスの改善】

ベンディングチャンネルでの分業制による抜本的なオペレーション変革や、メガDC・自動倉庫建設による物流・配送体制の最適化、バックオフィスでのシェアードサービス(BSO)による定型業務の効率化などを推進しています。

また、業務効率化を目的としたRPAの導入や全社員へのスマートフォン配布といったデジタル化・IT導入を積極的に推進し、働き方改革の基盤を強化しています。

年間 **100,000** 時間以上
業務自動化
2021年までの実績

RPA (Robotic Process Automation)



RPAとは、ソフトウェア型のロボットが人間の代わりに業務を行ってくれるデジタル技術です。特に定型作業や反復作業などの自動化が得意で当社でも2018年から導入が進んでいます。

- 簡単作成
- 幅広い対応
- 24時間 365日稼働

CCBJグループ自動化マスコットキャラクター「ジョン」

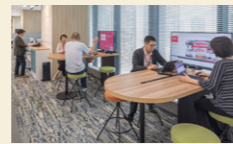
【柔軟な働き方と適正な労働時間管理への対策】

柔軟な働き方の実現のため在宅勤務、サテライトオフィス勤務を推進するほか、営業部門はできる限りリモートでの商談や直行直帰を実施するなど、働きやすい制度を整備することにより、ワークライフバランスの実現に努めています。

また、正確な出勤管理ができるクロックインシステム(出勤時間=就業時間とする)の導入や、年初の年休取得計画の促進について全社を挙げて取り組むとともに、所属長研修においても時間管理の重要性について学ぶ機会を設けるなど、社員の時間管理に対する意識改革を進めています。

具体的な取り組み

- 全社員へのスマートフォン配布と活用(クロックインシステム・残業申請承認・稟議申請承認・安否確認など)
- ITツール(PC・タブレット)の拡充
- テレワークの推進(リモート会議・商談・面接の実施)
- サテライトオフィスの拡大(約100拠点)
- スーパーフレックスの導入
- ボランティア休暇制度
- 自転車通勤制度の拡充
- 副業の認可



サテライトオフィス勤務



スマートフォンアプリ「Clock-in」

新型コロナウイルスワクチン職域接種の実施

CCBJHグループで働くすべての社員の健康と安全・安心な職場環境を整備することを目的として、職域接種に関する政府方針のもと、新型コロナウイルスワクチン職域接種を実施しました。当社の東京、埼玉、愛知、大阪、福岡の5ヶ所の社内オフィスで、2021年6月から8月に1回目および2回目、2022年3月に3回目の職域接種を行いました。

当社は、職域接種に限らず、ワクチン接種を希望するすべての社員に対し、接種に関わる時間を就業免除としています。また、ワクチン接種当日、副反応による体調不良の場合は、接種当日を特別有給休暇とすることができます。さらに翌日以降に体調不良の場合は、特別有給休暇を1日取得可能としています。



健康経営に関する取り組み

社員の健康保持・増進は、重要な経営課題のひとつであり、コカ・コーラ ボトラーズジャパン健康宣言「Sawayaka Style」で「Road to 100」のスローガンを掲げて100歳でも元気な体でいられることを目指し、「健康第一」の企業風土を醸成しています。この取り組みは、代表取締役社長のカリン・ドラガンが「健康経営責任者」として指揮し、人事・総務部長の上村 成彦が「健康経営推進責任者」として具体的な施策の立案・実行を推進しています。

また、社員が自ら健康増進について考え、具体的なアクションを起こす契機の提供・アクションの習慣化を目的として、「Sawayakaチャレンジ」というプログラムを提供しています。

コカ・コーラ ボトラーズジャパン健康宣言 「Sawayaka Style」

“Road to 100”
～100歳でも元気な体を目指して～

コカ・コーラ ボトラーズジャパンは、サプライヤーをはじめ、顧客、消費者含む地域・社会における健康増進への取り組みを支援することにより、社会課題の解決につなげ、健康で豊かな未来の実現に貢献します。

そのためには、社員自らが活動的かつ健康的なライフスタイルを送り、安心して・楽しく働くことが大前提であると考えます。社員一人ひとりが自律的な健康保持・増進活動を行うことを責務として認識し、健康保持・増進に向けたあらゆる取り組みを進め、「健康第一」の企業風土醸成をはかります。

「Sawayakaチャレンジ」の実施



社員の自律的な健康保持・増進が重要となるため、「Sawayakaチャレンジ」と称したプログラムを提供し、生活習慣改善の取り組みを推進。

*Sawayakaチャレンジとは、生活習慣を5つのカテゴリーに分類し、改善を行う仕組み



健康経営への取り組みの詳細
<https://www.ccbji.co.jp/csv/humanrights/health.php>



具体的な取り組み

スマートフォンアプリを使った「Sawayakaウォーク」イベントを4回開催(約7,500名参加)

- ウォーキング中の風景を撮って社内SNSに投稿「#Sawayaka フォトコンテスト」
- 歩数実績を称賛するため、社内イントラネット上でバッジを贈りあう仕組み

(主なバッジ)



社員の健康増進および受動喫煙対策

- 社内SNSを使用した定期的な禁煙プログラムの紹介
- 就業時間内施設内および社内車内全面禁煙
- 受動喫煙についてのeラーニング実施
- オンライン禁煙診療の費用を会社が全額負担

労働安全に関する取り組み

「安全と健康はすべてに優先する」という考えのもと、社員の安全と健康を守るとともに、企業としての社会的責任を果たすことが事業継続の根幹と位置づけ、相互信頼と実践に基づく安全文化の創造と醸成に取り組んでいます。

その一環として、2021年10月、社内に安全を学ぶ「Safety Learning Center」をオープンし、「機械の巻き込まれや感電、つまずき、転倒」などの安全体感機や、コカ・コーラオリジナルVR体感機を使ったトレーニングにより、危険感受性を高めて未然に労働災害を防止する取り組みを行っています。また、発生した事案については全社員に情報を共有し、発生部門等に対して再発防止指導を行うなど、再発防止に向けた取り組みも強化しています。



VR体感機を使ったトレーニング



新卒社員安全運転研修

リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

私たちは、CCBJHグループのビジネスレジリエンスプログラムに基づいて、リスクと機会の管理、即ち、社員と資産の保護、危機的状況への対応力の強化、保険によるリスク移転などに取り組んでいます。この取り組みを強化するため、2021年にリスクマネジメントシニアグループを設立し社長直属の最高リスク責任者(Head of Risk Management(HRM))を任命しました。COSOフレームワークとISO31000に基づいたエンタープライズ・リスク・マネジメント(ERM)プログラムは、引き続き強化され、適切な意思決定、リスクと機会の特定、それらへの対応により、事業を促進しています。2021年には、ERM研修プログラムを通じ、企業文化としての定着に注力しました。

このプログラムは、エグゼクティブ・リーダーシップ・チーム(ELT)や、事業本部ごとの会議を通じ、リスクと機会の見える化に注力しており、さらにELTメンバーとHRMの議論により補完されています。

当社のリスクおよび関連する取り組みは、監査等委員会には四半期ごとに、取締役会には年2回、プログラム全体の最新情報が報告され、毎年内部監査チームによってグローバルなベストプラクティスに照らして監査されています。

ERMプログラムには、当社の事業戦略、目標、原則との整合性を確保するためのさまざまな要素が盛り込まれており、当社の戦略的方向性、倫理観、価値観との一体化を推進しています。また、このプログラムは事業計画とリンクしており、リスクに影響を及ぼし、機会を創出する要因について内部・外部の環境を継続的にモニターしています。また、購入すべき保険の種類と金額についても毎年評価を行っています。保険市場が厳しさを増すなか、当社のアプローチは関連するリスクの発生可能性とその影響度の大きさに照らし、その付保可能金額とコストによって大きく影響を受けることとなります。

事業継続計画を含む強固な危機管理プログラムにより、当社は危機に効果的に対応することができます。これらのプログラムは、毎年見直され、ELTメンバーに対してシミュレーション形式で行われる危機対応トレーニングが行われています。

リスクマネジメント活動と説明責任

リスクと機会の両方を特定、検討、管理、報告するためのERMプロセスは、ISO31000と改訂版COSOフレームワークの両方の優れた点を取り入れ、2021年にさらに強化されました。2021年、このプロセスの一環として行った活動は以下の通りです。

ELTは、通常のビジネスの一環として、リスクと機会について議論します。シニアリーダーは迅速な対応を行います。

ELTによる
重点的な取り組み

日本コカ・コーラ、他ボトラーを含むコカ・コーラシステム内においても定期的に議論を行い、外部リスクをモニタリングします。

コカ・コーラシステム
による積極的な
リスクモニタリング

HRMが議長を務めるシニアリーダーとの会議で、ボトムアップ方式により、リスクと緩和策、および潜在的なビジネスチャンスを特定します。さらにHRMとELTの間で行われる一対一のインタビューでトップダウン方式によるリスク評価を実施します。

事業本部による
見直しとELTとの
一対一の面談による
リスクの深堀

毎年開かれるリスクマネジメント委員会において、きめ細かい見直しと議論を行い、主要なリスクと実施済みの緩和策を検証します。

リスクマネジメント
委員会

リスク管理に関する規範を遵守し、HRMは四半期ごとに、監査等委員会に対し、重要なリスク、管理、およびそのプロセスについて説明します。

監査等委員会

HRMは、年2回取締役会に状況報告を行い、ビジネスレジリエンスプロセスの透明性を確保します。

取締役会
による見直し

2021年の取り組み

スマートリスク構想の実施

2021年、私たちはスマートリスクというコンセプトを導入し、ERMプログラム全体を強化しました。このコンセプトは、リスクマネジメントを成長志向と結びつけることによって、リスクマネジメントの考え方を一変させるステップであり、成長の機会を活用するために、革新的に行動し、情報に基づいたリスクを機敏に取る力を私たちに与えることによって、企業文化の変革を促すものです。この文化的な統合は、毎年見直され、強化されるERMフレームワークによって支えられており、リスクの特定と管理、および成長機会の発見と活用のスピードを高めています。当社のビジネスレジリエンスプログラムは、事業を保護しながら成長を可能にすることに焦点をあてています。



コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、経営の健全性、透明性および効率性を向上させ、中長期的な企業価値向上と株主価値の増大に努めることです。

当社は、ガバナンス体制の一層の強化を目指し、監査等委員会設置会社を採用しています。当社の監査を担う監査等委員会は、複数の独立社外取締役を構成メンバーとしており、この社外取締役である監査等委員が、取締役会における議決権を有していること、ならびに株主総会において取締役の指名・

報酬等についての意見を陳述する権利を有していることなどにより、経営監督機能がより強化されています。

また、当社は、意思決定および経営監督機能と業務執行機能を分離すべく、執行役員制度を採用しているほか、重要な業務執行の決定の一部を取締役に委任することにより、取締役会において特に重要度の高い事項についての審議をより充実させるとともに、それ以外の事項について、経営陣による経営判断の迅速化も図っています。

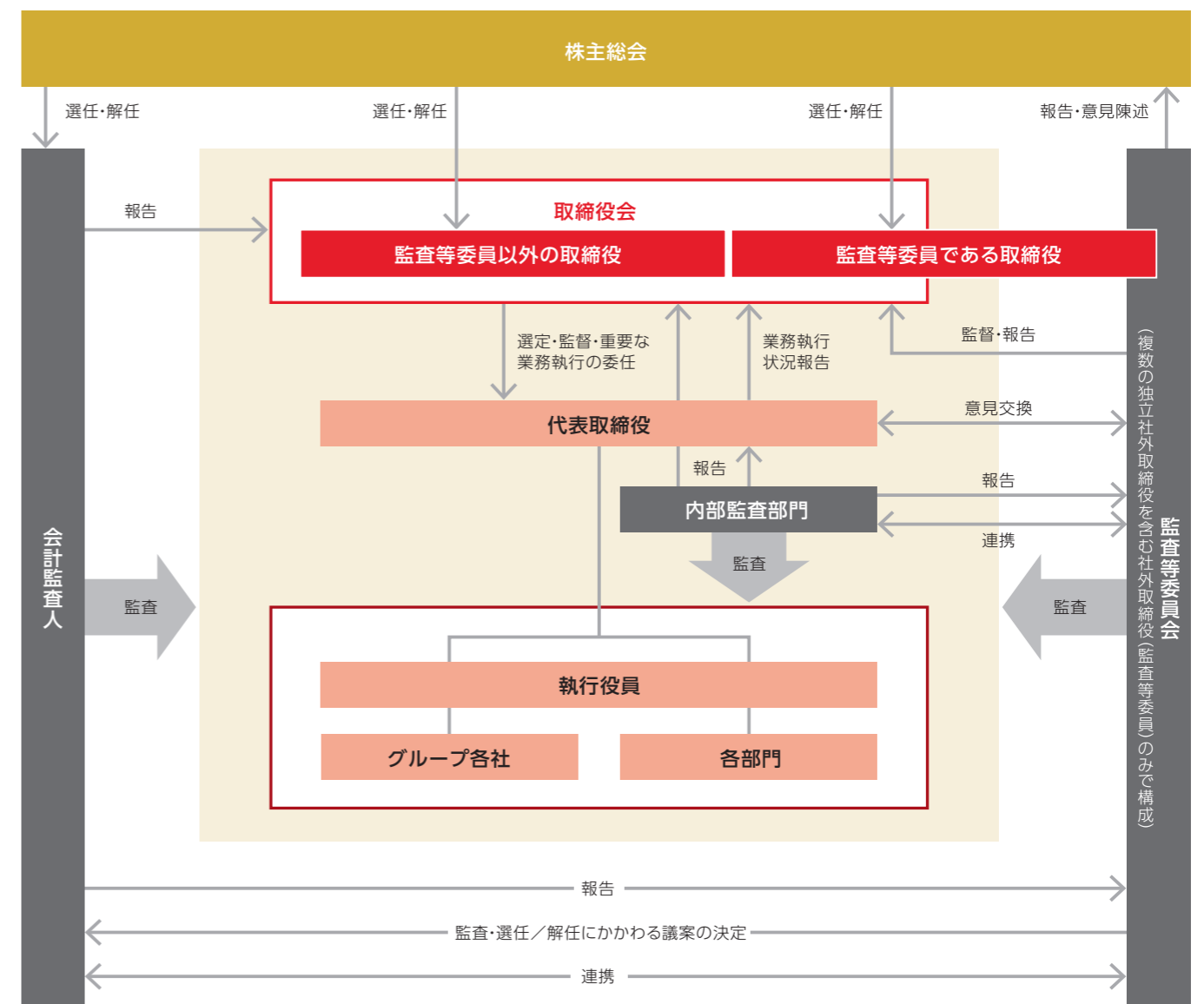


コーポレート・ガバナンス報告書
https://www.ccbj-holdings.com/corporate/governance/pdf/report_jp.pdf



コーポレート・ガバナンス体制図

2022年3月24日時点



リスクマネジメントへの取り組みの詳細
<https://www.ccbji.co.jp/csv/risk/>



コーポレート・ガバナンスの詳細
<https://www.ccbj-holdings.com/corporate/governance/>



2022年3月24日時点

取締役一覧

代表取締役社長
カリン・ドラガン



日本を含む世界のコカ・コーラボトラーに約20年間従事。直近では、ザ コカ・コーラ カンパニーのボトリング投資グループプレジデントを務める。

代表取締役副社長
最高財務責任者
(財務本部長)
ビヨン・イヴァル・ウルゲネス



欧州・中東・アフリカおよび日本のコカ・コーラシステムにおいて、ファイナンスの経験をもつ。直近では、ザ コカ・コーラ カンパニー 欧州・中東・アフリカ(EMEA)グループの副財務ディレクターを務める。

社外取締役
独立役員
吉岡 浩



ソニー(株)でのマネジメント経験とグローバルな知見を有し、また、コカ・コーライーストジャパン(株)の社外取締役も歴任。

社外取締役
独立役員
和田 浩子



日用消費財業界でのマーケティング、マネジメント、組織・人材育成などの豊富な経験をもつ。これまでに、米プロクター・アンド・ギャンブル社の役員、デザイン(株)や日本トイザらス(株)の代表取締役等を務める。

社外取締役
独立役員
谷村 広和



日本のコカ・コーラボトラーに約15年従事。現在は、みちのくコカ・コーラボトリング(株)の代表取締役社長を務める。

社外取締役(監査等委員)
イリアル・フィナン



ザ コカ・コーラ カンパニーの経営や全世界のコカ・コーラボトラーを統括するボトリング投資グループの代表として長年コカ・コーラビジネスに携わってきた経験をもつ。

社外取締役(監査等委員)
独立役員
行徳 セルソ



多国籍企業でのITやサプライチェーンの経験をもつ。日産自動車(株)および西本Wismettacホールディングス(株)における豊富なマネジメント経験や監査経験をもつ。

社外取締役(監査等委員)
独立役員
濱田 奈巳



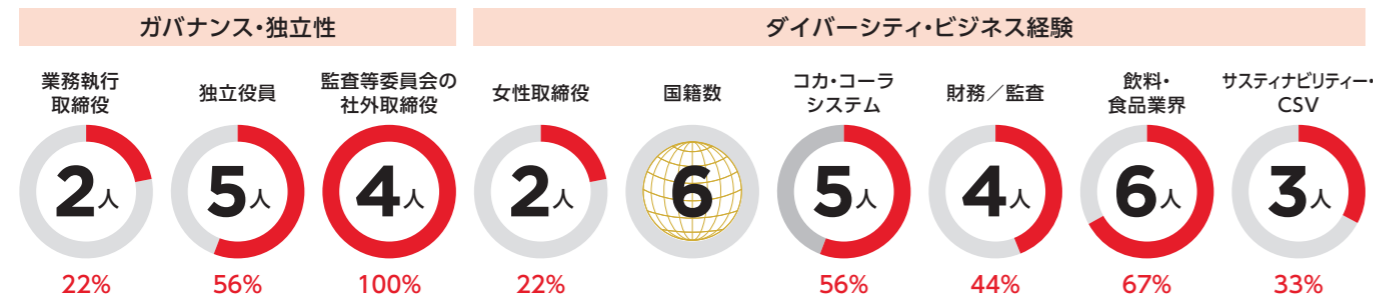
自身でファイナンスに関するコンサルティング会社を経営するなど財務および経営に関する豊富な経験をもつ。これまでに、リーマン・ブラザーズ証券会社の日本法人のマネジメント等を務める。

社外取締役(監査等委員)
バムシー・モハン・タティ



ザ コカ・コーラ カンパニーのボトリング投資グループにおいてさまざまな分野で強いリーダーシップを発揮するとともに、アジア地区のグローバルな会社経営経験をもつ。現在は、同社中国・モンゴルオペレーティングユニットのプレジデントを務める。

取締役会の構成メンバーの属性



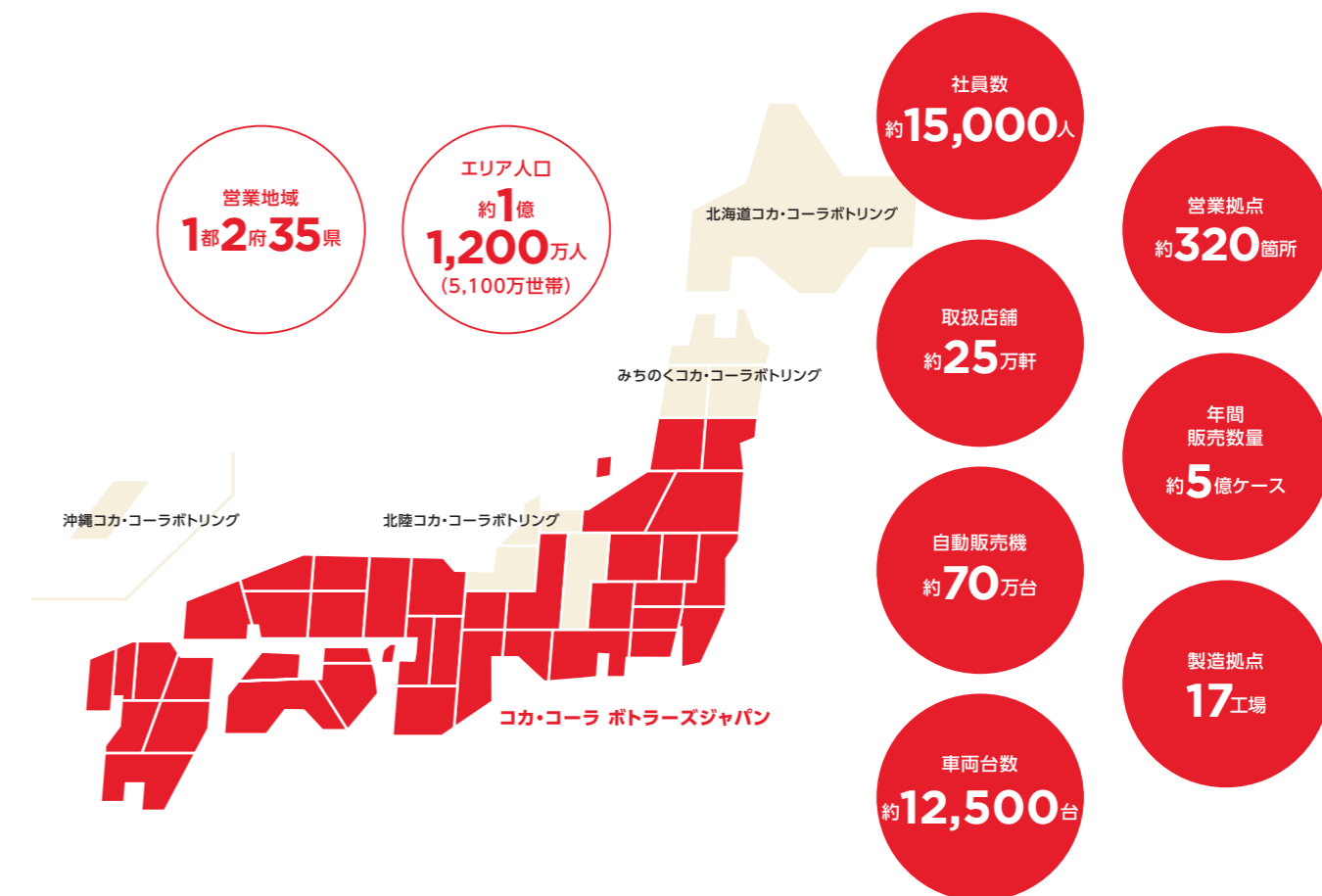
※円内の数字は該当する取締役の人数。国籍の数字は取締役の国籍数

CCBJHグループの概要

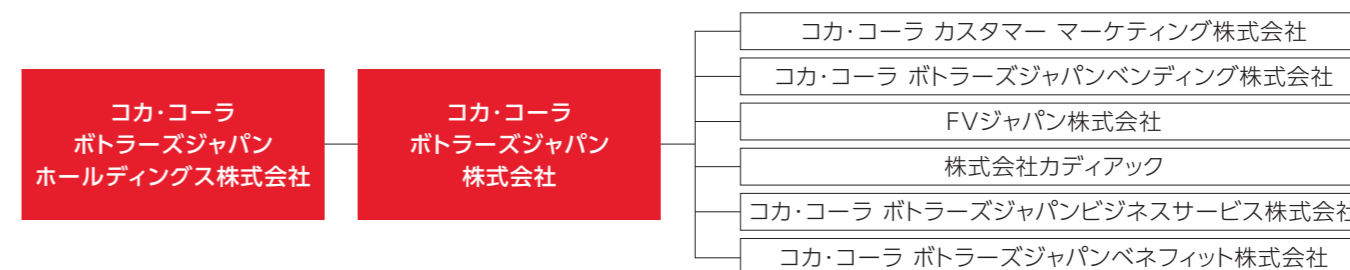
会社概要

2021年12月末時点

名称	コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社 Coca-Cola Bottlers Japan Holdings Inc.		
設立	1960年(昭和35年)12月20日 ※2018年1月1日 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社に商号変更		
決算期	12月31日	資本金	15,232百万円
代表者	代表取締役社長 カリン・ドラガン	上場取引所	株式会社東京証券取引所(プライム市場) ※ 市場区分の見直しにより、2022年4月からプライム市場



グループ体制図



工場見学のご案内

CCBJHグループでは、2021年より、自宅や学校にいながら全国どこからでもリモートで参加可能な「オンライン工場見学」を開催しています。「コカ・コーラ」の歴史、製造工程の紹介のほか、工場見学ツアーガイドによるライブ感あふれるクイズ、質問コーナーなどお楽しみいただける内容になっています。また、製造ラインの案内動画視聴や「コカ・コーラ検定」を体験できる「バーチャル工場見学」もウェブサイトで公開中です。みなさまの“ご来場”をお待ちしています。

リモートで見学可能な工場見学



「オンライン工場見学」のご予約、「バーチャル工場見学」の体験は、ウェブサイトをご確認ください。

<https://www.ccbji.co.jp/plant/>



工場見学ガイドがオンラインで工場のご案内



動画と写真でバーチャル工場見学

見学可能な工場

※現在見学は休止しています。(2022年5月時点) 工場見学の再開状況は、ウェブサイトをご確認ください。

国内17工場のうち、蔵王工場(宮城県)、多摩工場(東京都)、東海工場(愛知県)、京都工場(京都府)、広島工場(広島県)、えびの工場(宮崎県)の6工場を見学施設として有し、年間17万人を超える来場者とのコミュニケーションの場としています。

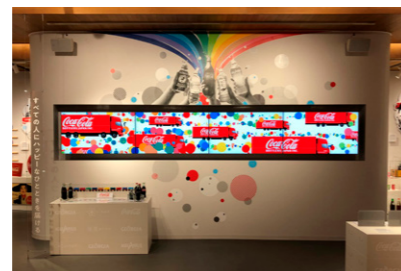
蔵王工場

宮城県刈田郡蔵王町宮宇南川添1-1



多摩工場

東京都東久留米市野火止1-2-9



東海工場

愛知県東海市南柴田町の割266-18



京都工場

京都府久世郡久御山町田井新荒見128



広島工場

広島県三原市沼田西町惣定247



えびの工場

宮崎県えびの市大字東川北字有留1321-1



CSVレポート2022に寄せて



青木 雅生 氏
三重大学人文学部 教授

経営学、経営史、研究開発マネジメントなどを専門とし、企業が社会に果たす役割をふまえ、“良い経営”とは何かに関わって、“企業の主体性”を問いつつ、企業を通じて社会がより良くなることを研究している。
2002年立命館大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了。博士(経営学)。

本レポートでは、「価値創造プロセス」と「CSV Goals」の関連を図やQ&Aでわかりやすく示すとともに、マネジメント体制も整備され力強く推進できるようになった上に、「ミッション・ビジョン・バリュー(MVV)」に関わってAWARDを創設するなど、様々な方法を駆使して全構成員の力を結集し成し遂げようという意欲に溢れています。コロナ禍の影響で事業収益が厳しくとも、中長期的な共通価値(CSV)の実現に向けて取り組んでおられることに敬意を表します。

さて、サステナビリティーフレームワークとして3つのプラットフォームが明示されています。

「多様性の尊重」においては、ダイバーシティ&インクルージョンの取り組みにより、従業員のみなさんの「心理的安全性」が確保され、それぞれがもつ能力を存分に発揮する条件が整えられつつあります。近年は自社の人財の価値を示す「人的資本の開示」の動きが広がっており、取り組んでいただくことを期待します。

「地域社会」においては、飲料は人と人のつながりを強める上で大きな役割がありますが、コロナ禍で難しくなるなか、教育機関・市民団体・地域行政などの産官学民連携をさらに推進されています。地域の人々にとってSDGsは縁遠いものと思われがちですが、身近にある地域の課題こそ持続可能な社会の実現につながるという実感をもつ「ローカライズ」に向け、地域のあらゆるところに顧客がいる飲料会社らしい取り組みを引き続き推進されることを期待します。

「資源」においては、かねてより明確な目標と実践によって地球環境問題の改善を進めてこられました。今回、サプライチェーン全体における温室効果ガス(GHG)削減に向け、さらに推進する目標を掲げられました。カーボンニュートラルをはじめとしたSDGsの取り組みは、我慢をすることではなく、将来世代の欲求を満たしつつ現世代の欲求も満足させる取り組みであり、むしろ新しい技術開発などにつながる新しい発想のしくみづくりになることを期待しています。

CSVレポート2022 アンケート

今後のCCBJHグループの取り組みや、CSVレポートの制作の参考にさせていただくため、アンケートを実施しています。みなさまのご感想やご意見などをお聞かせください。



下記のURLまたは二次元バーコードよりアクセスしてください。

<https://form.ccbji.co.jp/form/csv2022>



Coca-Cola

BOTTLERS JAPAN HOLDINGS INC.

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

〒107-6211

東京都港区赤坂九丁目7番1号ミッドタウン・タワー

お問い合わせ

ウェブサイトの「お問い合わせ」フォームをご利用ください。

<https://www.ccbj-holdings.com/inquiry/>

